

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和5年度第2回相模原市食育推進委員会		
事務局 (担当課)	健康福祉局保健衛生部健康増進課 内線(5622)		
開催日時	令和5年8月14日(月)午後1時30分～2時50分		
開催場所	ウェルネスさがみはらA館3階 一般健診室		
出席者	委員	12人(別紙のとおり)	
	その他	2人(農政課長、学校教育課指導主事)	
	事務局	9人(保健衛生部長、保健衛生部参事、健康増進課長、他6人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	—
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
議 題	1 開会 2 議題 (1) 次期相模原市保健医療計画に盛り込む食育分野の施策について (2) その他 3 閉会		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

委員交代について

(以下、堤会長による進行)

本委員会の公開について委員の承認を得た後、出席者が定足数に達していることを確認し、議題が進行された。

2 議題

(1) 次期相模原市保健医療計画に盛り込む食育分野の施策について

事務局より、資料1、2に沿って次期相模原市保健医療計画に盛り込む食育分野の施策について説明を行った。

【委員からの意見】

◎取り組みの方向性1-②-1 (1)「食を通じたコミュニケーションをとる人を増やします」についての意見

(今委員) ここに細かく書くことではないのかもしれないが、学校や保育所の給食に関する取組の記載について、高齢者の孤独などの問題もあるので、高齢者を意識できるような内容もあると良いと思う。この「食を通じたコミュニケーションをとる人を増やします」を実践するためには、例えばこの食育推進の所管課や学校給食課、福祉の関係課など市の中での横のコミュニケーションも重要になると思うので、そういうことが見えるような書き方ができると良いのではないかと感じた。

(事務局) 施策については、基本的には全ての世代を対象としており、特に子ども等、特段の対策が必要な場合には、そこを強調する形で記載している。具体的な施策については進行管理をしていく中で、全ての世代を対象とした具体的な事業に取り組んでいく予定であり、この計画そのものには、世代を特に細かくは明記していない。

(今委員) 恐らくそういうことだろうと思っていたが、高齢者は子ども等とは違う意味合いで、特段の対策が必要な層なのではないかとも感じたので意見として伝えた。

(事務局) 確かにその通りであり、高齢者の孤独の問題、独居の問題というのは、食にかかわらず、運動であっても生活習慣病の予防であっても非常に大事な取組であるため、そういった高齢者の方々の社会参加や地域の見守り等についても、保健医療計画全体の中では記載する予定である。

(堤会長) 今の事務局の説明にもあったが、ここには特段、高齢者と書いていなくて

も包含しているという認識で、計画は立てられているということでよいか。
(事務局) その通りである。

◎取り組みの方向性 1-②-1 (2) 「食への感謝の気持ちを育む取り組みを推進します」についての意見

(落合委員) 私は相模原市廃棄物減量等推進審議会の委員もしているが、その一般廃棄物の処理基本計画の改定の中でも食品ロスを減らすにはどうしたらいいか様々な意見が出ている。今コロナの類型が変わって、懇親会等の増加に伴い宴会等の食べ残しも増加して、食品ロスに繋がっている。例えば宴会等で最初の30分は、席を離れないで自分の席で食事をし、最後の10分は自分の席に戻って食事を食べ切るという「3010(さんまるいちまる)運動」というものがあるが、そういうことを推進するとき、それぞれで取組むだけではなく、連携していくことも必要なのではないかと思う。

(堤会長) そのあたりの取組を行っている団体等との連携については何か計画に盛り込めそうなことはあるか。

(事務局) 相模原市では一般廃棄物処理基本計画において、年次毎に廃棄物の処理数を減らしていくことを定めている。これには様々な観点があり、ごみを減らすことや地球温暖化の防止などの非常に大きな計画の中で、食品ロスも扱っている。保健医療計画の食育分野では、どちらかという食を大切にすることや、もったいないから全部食べようというような内容となっているが、食品ロスを減らすための取組ということでは、環境経済局とも連携しながら施策を実施している。現時点では市の取組には環境配慮的な部分の記述はないが、一般廃棄物処理基本計画等の動きも見ながら記載について検討する。

(堤会長) 市の取組の食品ロスの現状や削減方法の情報提供のところに、例えば「関係機関と連携のもと、食品ロス削減に向けた取り組みを行います」のような表現にするのはどうか。

(事務局) 当然、すべての取組は市だけでできるものではなく、特に食品ロスの部分というのは、健康づくり以外の観点も非常に多いことから、いただいたご意見をふまえ、表現については検討する。

◎取り組みの方向性 1-②-2 (3) 「伝統的な食文化や地域の食の伝承を推進します」に関する意見

(江藤委員) わかな会では各地区の公民館で、「親子の食育」、「生活習慣病予防」、「高齢者のフレイル予防」に取り組んでいる。今回も、「親子の食育」について小学校や近隣の児童館等にも親子の方に声かけをお願いしたが、どうして

も若い子育て世代と繋がることができない。

わかな会も高齢化で、自分の子どもや孫は対象の世代ではないため、近隣の方とどのようにしたら繋がることのできるのか、小学校や幼稚園などに親子の食育に参加したい方が本当にいるのか危惧している。そして今回、個人的にポスティングした結果、120枚配って3人の方が参加してくれて、その方たちは親子で参加できる郷土料理の石垣だんご作りをやってみたかったと言っていた。どうやったら教えたい人と教わりたい人をつなげられるのかについて皆さんにもお考えいただけたらと思っている。食育推進計画が、私たちの活動の強い味方になってくれるとよいと思っている。

(堤会長) 取組をどのように周知していくか、そのニーズがあるのにそこに届かないということだったと思うが、それについて委員から何かご意見やアイデアはないか。市の広報やホームページに掲載する等で知らせるというのはどうか。

(江藤委員) わかな会会員は70代80代の方も多いため、スマホを持たない会員たちと、それからパソコンに疎いということもある。

(堤会長) わかな会のホームページではなくて、相模原市のホームページで周知するのはどうか。また、市の広報に掲載するのも良いと思うし、あとホームページも市でやると子育て中の若い親御さんたちは、スマホで情報を見られた方がわかりやすいので、市の方で協力して周知するのがよいと思うがどうか。

(江藤委員) わかな会では地域情報誌で周知しているが、自治会に入っていない若い世代がなかなか集まらない。また、各公民館で行う小規模の事業であり、広報だと対象が大きすぎる可能性がある。今回、地域の小学校の校長先生に協力していただき、学校にチラシを掲示してくれたが、子ども1人1人への配布や、直接手渡しはしないで欲しいと言われた。昨年大学生向けに事業を行ったときに、相模女子大学にもお願いしたが、学生への直接の声掛けは遠慮して欲しいということで、直接会話ができないためやはり口添えが必要。でも口添えするには個人情報の問題があるということで、すべて行きどまりになってしまったので、何とかならないかと思っている。

(堤会長) 娘がお世話になっていた保育園では、公道に面したところに掲示板があり、そこに園の行事や子育て広場などのイベントなどの情報が公表されていたので、子育て中の人が見て参加することができた。わかな会の事業をやる会場の近くの保育園や幼稚園の園長先生等をお願いして、掲示板へのチラシの掲示をお願いするのはどうか。

(江藤委員) 児童館、幼稚園、保育園、コンビニエンスストアにもお願いし、大体50枚ぐらいチラシを掲示したが、それを見て電話をする人がいないので、若

いお母さん方はニーズがないのかと思っていたが、参加した3人のように探しているお母さんもあり、現状がわからないというのが正直なところである。

(堤会長) ニーズはあると思うが、周知する方法が難しいのか。市でやる離乳食講座や幼児食講座はすぐ定員に達して締め切りになるため、もっと人数増やせないのか、こんなにニーズがあるのに、と言われたことがあった。市にニーズがあるのに増やせないのかと聞いたら、話だけの講座であれば会場を大きい場所に変更できるが、実習を伴うものは会場の人数制限があるので難しいと聞いたので、潜在的なニーズはあると思う。

やってみたいとか、例えば石垣だんごなどの料理が学びたいという人もいるが、それをきっかけに、ママ友を作りたい方もたくさんいると思う。なかなか出会いの機会がない方もいると思うので、わかかな会の石垣だんごを作るイベントを媒体にして、同世代の子育て家庭が出会う場を提供するという意味も大きいと思う。

保育園などに通っている方は、何かあった時にすぐに専門家の保育士や栄養士にいろいろ相談ができるので、あまり子育ての悩みがない方が多い。一方、ご家庭で育てている方は孤立しがちになるので、何とかしてアクセスができるように考えていかなければならないと思う。

(落合委員) J A相模原でも、別の団体で実施していた保育園の児童に野菜のことを教える機会について、その団体からもう高齢化でできないのでJ Aの方でお願いできないかと相談されたため、職員と一緒に実施しながら少しずつ移行していくという形をとり始めたところである。人を集めること以前に、わかかな会のような団体がなくなってしまうのは良くないので、真剣に若い人達を入れていくような対策をしないといけないと思う。他の組織や自治会などもそうだが、少しずつ団体活動へ参加する人が少なくなり、活動ができなくなることの方がもっと重大ではないかと感じた。

(堤会長) その団体の存続そのものが危ぶまれては元も子ないので、例えばわかかな会とJ Aが少しずつコラボをして、わかかな会がこれまでに培ったノウハウとか、自分たちの想いをJ Aの若い方に引き継いでいき、将来的にはJ Aとわかかな会の協働や、わかかな会の状況によっては発展的な解消のような形にするなど、将来的なテーマも考える時代、時期に来ているのかなとは思った。

(落合委員) その通りだと思うが、ただやはりこういう団体はあったほうがいいと思う。ぜひどうしたら団体の存続ができるかとか、そういうことも市の取組としてやったらどうかと思った。相模原市としてわかかな会のような団体がなくなってしまうのは、あまり良くないことではないかと思う。

(江藤委員) 本当にもう灯火みたいになってきている。各公民館で3つの世代の講習を毎年やりたいという市の意向と、私たちの気持ちも一緒だが、やはり人数がどんどん減り、人数がいたとしても家族の介護や、自分の体調などで70代、80代の方が車で移動ができず自分の地区の公民館に行けるかどうかという状況なのに、他のわかな会会員のいない地域でも事業を実施しなければならない現状になってきており、今27地区の公民館で実施しているが、そろそろ限界に近いということを事務局の方にも伝えている。新しい人たちを呼び込むことも大事だし、1つ1つの事業が本当に今厳しい状況である。わかな会会員は本当にすごい方ばかりで、おばあちゃんの知恵袋の塊みたいな人なので、食品ロスの話も全部もうここで解決できるのではないかというくらいに皆さん素晴らしい方がいるので、この宝を何とか相模原市に残して欲しいというのは私の願いである。

(堤会長) 確か横浜の方でも数年前になるが、10代の若いお母さんたちを集めて離乳食講座を開くという企画を市でやっていた。普通の離乳食講座だと10代の母親は参加しづらい雰囲気だったが、市の方で10代のママさんの講座のような形で年齢を区切った。その中で核になる人を中心に10代のママさんたちの勉強会みたいなものを実施している。若いママたちだけに運営を任せるのではなく、例えば学識経験者の大学の先生を市から依頼して講師に呼んだり、市の保健師や栄養士の方をアドバイザーにしたりするなど市がバックアップしている。市民が中心になって運営する形にもっていき、とてもうまくいっているということがかつて経験したことがあるので、わかな会の方も集まった方に、すぐにあなたたちやってください、では無理だと思うが、次第にその若い人を核として、友達を呼んできて「今度こういうことをやろう」みたいにその人たちが中心になって、わかな会の経験豊富な会員や学識のある専門職である保健師とか栄養士とか、そういう人にも支えてもらいながら当事者を育てていくことをしてもいいのではないかと思った。

(江藤委員) 少しでも食育活動をやりたくてボランティアに入っているのでも、何かお役に立てればいいと思うし、できる限りやりたいと思っている。

(堤委員) 若い方が参加し今度は活動する側になるような、その可能性も考えていただけるとありがたいと思う。

(西田委員) SNSでの発信が今は重要だと思っている。若いお母さん、子育て中のお母さんという範囲がぼんやりしてしまう。育休中のお母さんはつかまりやすいし、電話もかけやすいと思うが、働き盛りのお母さんは、電話での申し込みは難しいと思うので、申し込みフォームやメールなど、簡単にアクセスして申し込みができる方法がないと、学びたい・遊びに行きたい

と思っても、申し込みはできないのではないかと。電話の申し込みだと、今は本当に少ないお家にいるお母さん限定になってしまうので、魅力ある学べる機会を作るときに、誰に来てもらいたいのかをわかりやすく、例えば忙しいお母さん向けや、10代のお母さん向けにするとか、ピンポイントでやっていかないと埋もれてしまう。市として市民に広く募るとするのが当たり前のような感じがするが、発信する時に相手にうまく刺さるようちゃんと丁寧に、来てもらいたい人を特定していくことが大切なのではないか。

(今委員) 講座の時間設定が合わず、行きたくても行けないこともあると思うので、デジタル技術を活用して何かやるのは良いのではないかと。私はYoutubeで料理動画を見て作るが、手元が見られるのでわかりやすい。食に関する普及啓発をライフステージやライフスタイルに合わせた方法で行うようなやり方が何かあるのではないかと。例えばベジタベーターにも、作り方の紙や講習会のお知らせがある。講習会は行けない場合でも作り方があってもいいし、お店で情報に出会えるのはとてもよいと思うので、そういうコミュニケーションができるといいと思う。

私自身も公民館の活動をいくつかしているが同じような悩みがあり、気持ちがある人はいるが高齢等でやる人・提供する人が固定化している。わかかな会の活動も面白いなと思っても講習を受けるのにも時間があるし、活動するのもかなり忙しくなるのでわかかな会として活動するのが難しい人や、食育講座なども時間が合わなくて行けないなどマッチしない人も出てくるので、解決方法については私も日頃考えている。

例えばYouTubeなどで新しい料理を覚えると、これを他の人と一緒に作れたらいいなと思うことがある。あまりお勉強っぽくなくてただ単に一緒にやってみようというような、気軽なものもあると楽しいのではないかと。

公民館によってはTwitterを活用していて、例えば講習等の情報をタイムリーに上げているところもあるが、Twitterのアカウントを持っておらず、ホームページの更新もかなり遅い公民館もあるので、市が公民館の発信のサポートなどの対応ができると良いのではないかとと思う。

(堤会長) ここのSNSやデジタル技術の活用の方法論として、SNSやホームページをできるだけ日々新たに更新できるように、不得手な人が多いところは市でサポートすることも入ると思うので、そこも含めて今後市として取り組んで欲しいと思う。

また、今後の課題として、ただ単にマナーや料理の作り方を学びたいということだけでなく、誰かと作ってみたいとか、人と繋がってみたいという気持ちがすごく大きいと思うので、出会いの場もぜひ提供できるように今後活動が進んでいけばよいと思う。

◎取組の方向性 1-②-3 (2) 「よりよい食べ物の選択ができる環境づくりを推進します」に関する意見

(今委員) 生産側を応援するようなことがないと選択もできないので、生産にも繋がるようなものはないのかと思って読んでいたが、そもそもの方向性が選択できる環境づくりなので、そういう内容は入っていないのか。両方から取り組まないと、結局は得られないのではないかという気がした。

(堤会長) 取組の内容のうち、「地場農産物等の利用や販売促進に向けた取り組みを推進します」というところが、今委員が話されたことではないか。

(今委員) 販売促進と生産とは少し違う方向なのかなと思った。ただここはそういう方向のことを書くところはないのかもしれないが、こういう計画の取組などは、取組内容などを読んでこういう方向で考えているんだと思っても、結局その先どうなっているのかが具体的によくわからない部分がある。

(堤会長) 生産がたくさんないと販売が促進できないということなので、販売促進という中に含まれていると思う。

(今委員) 両方が含まれているということで理解した。

◎全般に係る意見

(堤会長) 私の方から1つ、先ほど保健医療計画の食育分野については、第4次相模原市食育推進計画として位置付けされたものという説明があったが、そのことは現在の資料1の体系図や資料2にも記載がない。この「食を通じた健康づくり」というのが、第4次相模原市の食育推進計画に当たるものなので、それを資料1の体系図に、例えば「食を通じた健康づくり」の横に、「第4次相模原市食育推進計画」のように書いておいた方が、「第4次相模原市食育推進計画」がここに入っていることがわかってよいのではないか。同様に「歯と口腔の健康づくり計画」もあるので、体系図でこの計画の中での「食を通じた健康づくり」や「歯と口腔の健康づくり」がそれぞれ「相模原市食育推進計画」「歯と口腔の健康づくり推進計画」であるということがわかるとすっきりすると思う。

(事務局) 今、会長からご意見があったように、「食を通じた健康づくり」は食育推進計画、「歯と口腔の健康づくり」も歯と口腔の健康づくり推進計画の位置付けがある。このことを体系図に入れ込むか、または各計画と他の市の計画との関連やこの計画がどういう位置付けで作成したものか等の説明を記載するページに書いていくかなど、どこにそのことを表記するかは、市民にもわかりやすく伝わる場所で、何らかの形では必ず記載をしたいと考えているので、掲載場所については検討させていただきたい。

(堤会長) 歯の方も「歯と口腔の健康づくり推進計画」のような表記が、同じように入る感じなのか。

(事務局) この基本方針Ⅰにまずそもそも健康増進計画の位置付けがあり、その中に食育推進計画と歯と口腔の健康づくり推進計画もあるということで、いろいろな計画を位置付けたものとなっているため、この体系図の中で書くのがよいか、それともまた別のところで、「ここの取組の方針はこういう計画の位置付けがある」ということを書いた方がいいのか、そこのところは、上部会議の地域保健医療審議会でも検討しながらわかりやすい表記に努めて参りたい。

(堤会長) なるべくわかりやすく、せっかくのこの「第4次食育推進計画」と「食を通じた健康づくり」というのが同じものだということがはっきりし、市民の方にもわかりやすい表記になるとよいと思う。

(原田副会長) 患者の方に食事指導等をする立場にはあるが、こういった市民全体に食事・食育に関してきめ細かい指導をしていただくことによって、全体の健康レベルが上がると思う。今回は大変細かいところまで対策を打っていただけ感謝している。

(事務局) 本日のご意見については事務局と会長の方に一任いただき、意見をふまえ修正した内容を、計画本体を審議している地域保健医療審議会に報告し、完成を目指したいと考えている。一体的になった計画の素案については、また次回報告したいと考えている。

今日発言が漏れたものや後ほど気づいた点などがある場合は8月18日までに、健康増進課へメールでお知らせいただきたい。

(2) その他

(事務局) 今後の本委員会の予定ですが、次回、秋頃の開催を予定しており、今回ご意見をいただいた保健医療計画(第3次)の報告と、現計画の進行管理について意見を伺う予定としている。

3 閉会

以 上

令和5年度 第2回相模原市食育推進委員会名簿

団体名等	氏名	出欠
(一社)相模原市医師会	原田 工	出
(公社)相模原市歯科医師会	松井 光平	出
学識経験者(相模女子大学)	堤 ちはる	出
学識経験者(東京家政学院大学)	田中 弘之	欠
相模原市立小中学校長会	浅倉 勲	欠
(一社)相模原市幼稚園・認定こども園協会	平本 大輔	出
相模原市食生活改善推進団体わかな会	江藤 潤子	出
相模原市栄養士会	佐藤 美登利	出
相模原市健康づくり普及員連絡会	長瀬 嘉子	出
相模原市私立保育園・認定こども園園長会	藤木 総宣	欠
相模原市農業協同組合	落合 幸男	出
神奈川つくい農業協同組合	唐澤 由紀生	出
相模原市立小中学校PTA連絡協議会	樋口 陽平	欠
相模原食品衛生協会	森 健太郎	欠
さがみはら消費者の会	西田 玲子	出
公募委員	北島 みどり	出
公募委員	今 美和子	出
公募委員	中村 道子	欠